

2008.12
Vol.26

刊行／大橋川コミュニティセンター



-会場のようす -

大橋川通信

大橋川改修情報紙

H20
7/5

(土)

大橋川改修にかかる

大橋川周辺まちづくり検討委員会 主催

「市民のみなさまに意見を述べていただく会」を開催しました

10:00～17:00 場所：島根県職員会館 2階 多目的ホール

発表者 15名 傍聴者 117名

発表者のお名前と「テーマ」

- | | |
|---------------------------|---|
| ① 小泉八雲も愛した松江大橋の風景を守る会 | 大橋川拡幅反対
(代表：組織博志) |
| ② 徳岡 隆夫 | 伝統石材「来待石」を利用した親水護岸
(NPO法人自然再生センター 大橋川・宍道湖部会) |
| ③ 伊藤 孝一 | 松江大橋とまちづくり |
| ④ 大谷 輝子 | 松江市も弓浜農業と共に守ることを考える街づくりに |
| ⑤ 朝鶴地区検討委員会
(代表：野津 照雄) | 大橋川改修事業の朝鶴地区の課題について |
| ⑥ 木村 昭博 | 大橋川改修工事の早期実現 |
| ⑦ 原田 守 | 住民意見の集約と情報公開の方法について |
| ⑧ 木村 衣月子 | 段階的な治水とその検証 |
| ⑨ 吉岡 豊利 | 大橋川改修事業を契機に都市的な発展を |
| ⑩ 青戸 良臣 | 大橋川の水流の再検証を |
| ⑪ 宮沢 成緒 | 松江市 洪水対策の前提事項 |
| ⑫ 倉田 健悟 | 大橋川改修に係る意見・特に情報の公開と共有について |
| ⑬ 和田守 道則 | 川の拡幅・開削(平田船川・佐陀川)で水害を防ぐ |
| ⑭ 梶 成人
(豊町商店街協同組合理事) | 天神川を「みんなで遊べる川」に育てるプロジェクト |
| ⑮ 美見 昭光 | 拡幅工事をしない問題解決の工夫を |

大橋川周辺まちづくり検討委員会(島根県議会議員長主催)の「市民のみなさまに意見を述べていただく会」が7月5日㈯に開催され、100名を超える参加者がいました。事前申込を行った15名の方には、各自のプレゼンテーション資料を準備するなど各自工夫を凝らした発表を準備していただきました。希望者による飛び入り参加の発表や会場との意見交換も行われるなど、活発な意見発表会となりました。

松江のままで良くしたいという思いは同じですが、松江市の洪水対策の方法論では、発表者の意見は様々で、参加者も真剣に聞いていました。会場アンケート結果では、「参加して良かったやや良かった」と回答した方が8割を超えて、これからものよくなきを働きかけるといふ意見や、発表はできないけれども参加はしたいなど、今後の開催を望む声が多くありました。

市民意見交換会開催のご案内

12月13日(土) 10:00開始 島根県民会館 大会議室

委員会で検討している「大橋川周辺まちづくり基本計画(案)」について、市民のみなさまと話し合う「第4回市民意見交換会」を開催します。ご参加下さい。

▶▶▶市民のみなさまに意見を述べていただく会

発表者の意見、委員会・行政からの回答の一部:

懇談会や委員会の資料、全てのご意見は、大橋川コミュニティーセンターや、同ホームページをご覧いただけます。

ご意見

組織氏 もうすぐ完成するダムと放水路の効果は、宍道湖から日本海へ新しく大橋川を1本と佐川を12本なるとの同じ効果がある。充分すぎる効果である。ラムサール条約にも登録された両湖をつなぐ貴重な自然環境を破壊し、市中心街地を10年間も工事現場にする経済損失は計り知れないものがあり、今の時代、中止すべき事業である。諒早湾でも環境調査では影響無いと言っていたが、今大変な被害が出て、裁判でも認められた。宍道湖でももし私が言わなければなると思う。

委員会 まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。環境の問題については、「大橋川に関する環境検討委員会」の議論を参照してください。

行政 「大橋川改修技術検討懇談会」において、斐伊川水系の河川の整備状況、ダム・放水路完成後の大橋川の浸水状況の推定、上流狭窄部の模型実験結果、平成18年7月洪水による松江市街地の主な浸水要因等を説明し、大橋川改修の必要性や進め方について、専門家により議論していただきました。

大橋川改修による水環境及び動植物・生態系に与える影響については、環境調査を実施し、「大橋川改修に関する環境検討委員会」において、学識経験者から技術的な助言や指導をいたさながら、検討してきました。事業を進めるにあたっては、影響の程度を確認しながら進め、環境への影響が明らかになった場合は、対策を検討していきます。

大橋川改修の工事の方法や漁業への影響軽減対策について、漁業者の皆様から意見をいただきながら、検討を行うようにしており、意見を述べていただく会以降も宍道湖漁協との意見交換会を実施しています。

ご意見

徳岡氏 歴史を活かした治水として地域産の来待石(如泥石)の活用を提案したい。

委員会 「大橋川周辺まちづくり基本計画」は、ご意見の趣旨に沿ったものになっています。

行政 如泥石について、この度、試験的ではありますが、波浪工として大橋川コミュニティーセンター裏の護岸の水際に部分的に設置しました。既設護岸の石材については、再利用していると考えています。

伊藤氏 大橋川改修にあわせて水辺を活性化した商業ゾーンと、灘町・魚町を中心とした環境に配慮したまちなか居住ゾーンを設定し、次の世代のために商業とまちなか居住を両立させる住民のまちづくりが必要だとと思う。

委員会 「大橋川周辺まちづくり基本計画」は、ご意見の趣旨に沿ったものになっています。

行政 水郷松江の財産であるまちと水辺の近さを大切にし、懐いが生まれるような水辺の利活用及び白潟地区の住環境の保全を考慮し、地域の皆様とともにまちづくりを行っています。

大谷氏 大橋川を拡幅しても、中海の水位上昇は1cm程度といわれているが、これまでの洪水や高潮から、住民の実感としてこれを信じることは無理である。地球温暖化による水位上昇も懸念される中で、これ以上水位が上がれば農業を続けることが出来ないと思う。

委員会 まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。

行政 大橋川改修が水環境に与える影響を予測・評価するモデルは、「大橋川改修に関する環境検討委員会」において、学識経験者から技術的な助言や指導をいたさながら確立したものの、大橋川を改修して中海の水位は上昇しないと予測されています。

野津氏 水害から守るために住宅及び農地を地上げる必要がある。住居の移転にあたっては、地区内への移転先の確保の他、伝統と文化を尊重した生活基盤の整備が必要であり、水辺の自然を生かしたまちづくりを大事にし、産業振興を図って定住促進のための施策が必要である。

委員会 中下流の地域づくりの検討は、「大橋川周辺まちづくり基本計画」策定のち、当該地域別に議論することになりますので、ご意見はそのような機会に検討されるよう、引き継ぎます。

行政 水害から宅地や農地を守るために地上げ是有効な対策方法の一つです。今後、大橋川本川の堤防や朝剣川の合流計画等も踏まえながら判断していくたいと考えており、代替地の検討及び土地利用の調整について協議していきます。

移転先については、移転される方の事情を聞きながら、地域の実情に配慮した対策を協議してまいります。

木村(国)氏 安全・安心な生活のため事業を強力に推進して欲しい。追子団地をモデル地区として早期実施をして欲しい。

委員会 当委員会の後継組織である「松江大橋および周辺整備検討委員会(仮称)」で検討されるよう、引き継ぎます。

行政 洪水対策的重要性、緊急性を踏まえ、各地区的状況を考慮しながら、早期着手に向けて取り組んでいます。

原田氏 若者は水害体験なく、大橋川改修やまちづくりに関する情報が伝わっていないと思う。若い年代の人にも関心を持ってもらうため、テレビ媒体で活用したらどうか、また、賛成、反対の指標を取るためテレマゴをしたらどうか。

委員会 委員会は、ホームページや情報紙「大橋川通信」の配布、委員会後の記者会見で情報提供しています。今後も分かりやすい情報提供に努めます。意見交換については、今後、「大橋川周辺まちづくり基本計画」に関する市民意見交換会を開催することになります。どなたでも参加して意見を述べて頂ける場所ですので、是非ご参加下さい。

行政 平成18年7月に水害がありましたが、今後より多くの若い世代の方に洪水の危険性と大橋川改修の必要性や内容を理解してもらいたい、まちづくりの議論に参加してもらることが重要であると考えています。そのため、広報誌やホームページなどに加え、多様な情報提供に努めています。

木村(国)氏 平成18年7月以降の逆流対策などのように、費用がかからずできることをまずやって、その結果を検証すべきである。そういうことを重ねてくどうかが現実的である。

委員会 具体的な治水対策については、「河川整備計画」策定のなかで議論することになります。

行政 「大橋川改修技術検討懇談会」において、斐伊川水系の河川の整備状況、ダム・放水路完成後の大橋川の浸水状況の推定、平成18年7月洪水による松江市街地の主な浸水要因等を説明し、大橋川改修の必要性や進め方について、専門家により議論していただきました。



平成20年5月20日に開催の第9回大橋川周辺まちづくり検討委員会で、複数の委員から「市民のみなさまから意見を述べる機会をもちたい」という希望が出ているので、委員会でそのような会を開催してはどうかと提案され、平成20年7月5日に「大橋川改修にかかる市民のみなさまに意見を述べていただく会」を開催いたしました。

松江のまちづくりについて、日頃の思いを発表していただいたみなさまには、深い敬意を表しますとともに、会場につめかけて最後まで熱心に意見をお聞きになり、また質疑応答に参加してくださった方に、心からお礼を申し上げます。

ここにまとめましたのは、頂戴したご意見に対する委員会の回答、および、行政の回答・対応の一部です。

ご意見

吉岡氏 大橋川の改修事業を契機に、周辺の都市開発を進めることが求められると思う。治水だけでなく、背後地を含めて、民間事業も連携(説き)し、未来志向の都市づくりを進めて欲しい。

委員会 当委員会もそのような認識のもとで「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。

行政 大橋川改修をふまえ、大橋川沿い地域のまちづくりについて、伝統的な歴史・文化に配慮し、水辺の利活用、観光・商業振興と連携したものとなるよう、「大橋川周辺まちづくり検討委員会」において検討してきました。また、大橋川沿いの景観ににおいては、「景観専門委員会」において検討を重ね、景観に配慮した堤防形状や整備イメージを作成し、「大橋川沿いの景観形成に関する整備方針」としてまとめたところです。今後も松江の発展を見据え、大橋川改修を契機としたまちづくりについて検討していきます。

ご意見

青戸氏 昭和51年の計画の中で、湖岸堤の整備や内水対策の実施を約束しておきながら、それをほったらかしにし、新しい計画を立てることに一生懸命になっている。今の状況では新しい計画が何年経って生まれるのわからないのに、前に約束されたことをまず実施することが一番大事ではないか。

委員会 まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。

行政 内水対策については、大橋川周辺の内水対策を行っても、現状では宍道湖水位の上昇により越水・氾濫することから、地盤高の低い松江市街地では、大橋川の内水対策(越水・氾濫対策)を行なうことで、内水対策を実施する必要があります。なお、松江市街地内水対策検討会を本年8月に設置し、今年度中を目途に総合的な内水対策の素案をまとめる予定にしています。

ご意見

宮沢氏 昔の風情を残すため、松江大橋を架替えるのではなく強張りや修復で対応すれば良いのではないか。

委員会 当委員会の後継組織である「松江大橋および周辺整備検討委員会(仮称)」で検討されるよう、引き継ぎます。

行政 「大橋川改修技術検討懇談会」において、松江大橋に沿わる地域住民の様々な意見、松江大橋を当面存置した場合の課題、架け替える場合の課題を整理し、松江大橋の取り扱いについて、専門家により議論していただきました。松江大橋の取り扱いについては、存置・架け替え・開通するまちづくり・景観、道路管理上などの課題が多く、様々な観点から別途詳細な検討が必要であり、今後、専門家による意見や住民の皆様とともに考えてみたいと思います。

ご意見

倉田氏 大橋川改修について、基本的に、「①大橋川の流下能力を上げる」、「②汽水域の河川環境の変化を最小限にしてほしい」、「③水郷の風景を松江の市街地にまぶす」という3つの目標を達成するため、内水対策を実施する必要がある。しかし、平成16年12月に示された大橋川改修の河道案は、「①と②が両立しているとは考えれず、最善とは思えない」。現在、その情報の公開と共有が不十分であると思っており、なぜこのような河道になっているのかなどを住民に説明されなければならない。

委員会 まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。

行政 「大橋川改修技術検討懇談会」において、斐伊川水系の河川の整備状況、ダム・放水路完成後の大橋川の浸水状況の推定、上流狭窄部の模型実験結果、平成18年7月洪水による松江市街地の主な浸水要因等を説明し、大橋川改修の必要性や進め方について、専門家により議論していただきました。

ご意見

和田守氏 大社浜まで掘削してはどうか。平田船川から日本海まで掘削してはどうか。

委員会 まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。

行政 住民の皆様から寄せられた大橋川改修の代替案については、検討して比較を行った結果、代替案は治水計画上大橋川改修より優れた計画とは考えられません。

ご意見

梶氏 天神川の利活用のためには水质改善やヘドロ除去など環境整備が必要である。また、天神川の浚渫をして欲しい。

委員会 まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。

行政 現地調査を実施した結果、水の循環が部分的な河道の埋塞で妨げられている箇所が認められたため、浚渫を実施する予定です。

ご意見

美見氏 洪水時の大橋川の水位はゆづり上昇するので早くから予測が出来る。また、流速も遅いので、大きな打撃も少ない。このことから、可動式の堤防が可能な状況をつくりだしている。したがって、内水対策を前提として標高150m～200cmの間の適当な高さまでは固定した高上げを行。その上に50m～100mの間の高さで可動式の堤防を設置すれば良いと思う。可動式堤防はヨーロッパ、アメリカでも景観保持を考慮して活用されている。

委員会 まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。

行政 大橋川沿いの景観については、「景観専門委員会」において検討を重ね、景観に配慮した堤防形状や整備イメージを作成し、「大橋川沿いの景観形成に関する整備方針」としてまとめたところです。堤防形状については、沿川住民の皆様の意見を聞きながら、決定していきます。



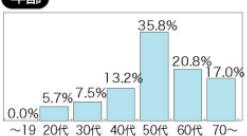


場アンケート結果 ▶▶▶

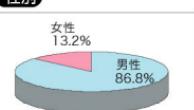
傍聴者117名のうち、53名の方から回答がありました。（回答率45.3%）

参加者について

年齢



性別



住所



職業



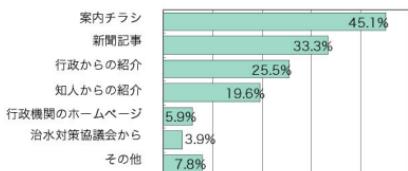
漫水経験



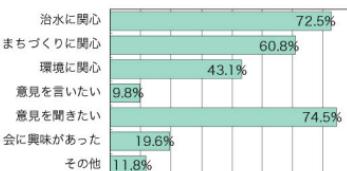
参加のきっかけについて

複数回答

会を知ったきっかけ

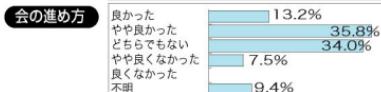
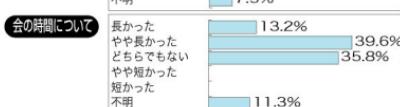
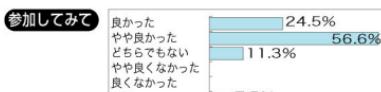


参加動機

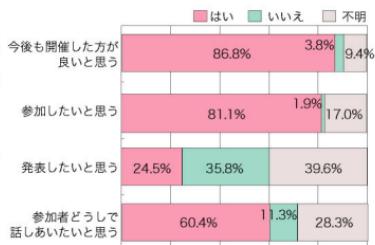


参加した感想について

複数回答



このような会の開催について



大橋川コミュニティセンター

[開館日] 年中無休(年末始めて除く) [開館時間] 9:30～16:00 [駐車場] 5台程度
〒690-0841 松江市向島町134-4

TEL(0852)28-3621-3622 FAX(0852)28-3623

E-mail:comisen@mable.ne.jp

ホームページ:<http://www.mable.ne.jp/~comisen>



周辺案内図



*大橋川コミュニティセンターは、松江市と島根県、国土交通省出雲河川事務所が一体となって管理・運営をしています。